

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で、今回示す以下の研究では、薬剤師による薬学的介入事例の調査を行います。この研究の内容を詳しく知りたい方や、情報を利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】病院および保険薬局における薬学的介入事例の集積と活用及び医療経済的効果の検討

【研究目的・意義】

愛媛県では、愛媛県薬剤師会、愛媛県病院薬剤師会と連携し、愛媛県内の保険薬局と病院における薬学的介入(薬の適正な使用に努めることで薬の効果が弱くなることを防止する、または、効果が強くなることによる副作用を回避することなど)事例を集積できるデータベースを構築しています。集積した情報および県内各地域での取り組み事例を解析することで、患者さんにより安全かつ有効な薬での治療を提供できる体制を整えることを目的としています。また、事例入力システムのランタイム版(FileMaker®のシステムをFileMaker®のインストールをせずに使用できるシステム)を作成し、県内外の各施設や各種事業等での事例収集、傾向分析等に使用できるようにしています。

【対象者】

2015年9月～2020年10月の間に愛媛県内の病院に問い合わせられた疑義照会のうち、医薬品の適正使用により薬効減弱防止や副作用回避に繋がる介入や残薬を解消させる疑義照会及び健康相談事例を対象とします。県内外の申請のあった施設にランタイム版を供与します。

【方法】

愛媛県内の保険薬局と病院における薬学的介入事例を集積できるシステムで集積した事例を提供してもらい解析します。調査項目は、薬学的介入の分類、介入後の介入結果、医療経済効果の推算、残薬解消介入の対象薬剤、健康相談事例となります。ランタイム版を使用した際は、使用状況を報告していただきます。

【患者さんの個人情報の管理について】

本データベースはインターネット上にFileMaker Server®(OSX Server 10.9 ファイルメーカー)を用いて作成し、愛媛大学キャンパス情報ネットワーク利用内規に基づき申請を行い、許可されています。さらに、データベースへの入力時点においても個人が特定できるような情報は入力していませんので、個人のプライバシーが侵害される危険性はほとんどありません。また、厚生労働省「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて患者さんのプライバシーを守るよう努めています。結果の発表や出版に際しては個人が特定できるような情報は掲載しませんので、患者さんの不利益となることもありません。

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院薬剤部 飛鷹範明

〒791-0295 愛媛県東温市志津川

TEL.089-960-5731

【研究実施体制】

愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

准教授・薬剤部長 田中 守

助教 飛鷹 範明

薬剤師 安永 大輝

薬剤師 濟川 聡美

薬剤師 都築 美穂

薬剤師 佐々木 優

薬剤師 中村 美代子